

# 特集

# 新茶

# 史上最速の

# 開始に

# 沸く！



▲3月下旬撮影 茶ばっけん丘(高塚丘)からの茶園風景

## 過去最速で始まった一番茶！

知覧茶の最盛期となる一番茶の時期を目前に、例年になく暖かい2月下旬から3月となりました。そのため、葉の成育が早く、被せが一斉に開始され『短期集中型』での年となり、知覧茶に携わる方々も大変苦労しましたが、無事、今年も新茶を作ることができました。茶のうまみや甘みを感じられる、この時期だけの新茶をぜひともお楽しみください！



▲(右)3月5日撮影、◀(左)3月19日撮影  
日を追うごとに、成長していく姿が見られます



▲4月初旬撮影 一斉に被せが入る茶園風景

## 知覧茶コラム 若い世代へ リーフ茶を 届ける

先日発表された、2019年の鹿児島県のお茶の産出額が日本一となった明るいニュースは、まだ我々の記憶に新しいところで、さらには鹿児島県の荒茶の総販売額だけでなく、荒茶の生産量も日本一に迫る勢いとなっています。

ご存知の方もいるかと思いますが、南九州市は県内の茶生産量の約半数を占め、荒茶生産量においては市町村別でダントツの全国トップです。(2019年度約13900t)

そんな中、お茶業界全体で昨今、叫ばれている「若い世代のお茶離れ」について焦点を当てていきます。

近年、急須を持つていない家庭が増えていることも要因ではありますが、ほかに何か理由があるのではないかと感じているところがあり、昨年からは積極的に市場調査を実施しています。

調査を進めていくと、非常に興味深い結果が見えてきたので、左記のとおり紹介していきます。

### 全国の学生がお茶に関わるプロジェクト 【TEALABO】

若い方々に楽しく、面白く「知覧茶」を伝えるにはどうしたらいいだろうか、そんな課題から生まれたのが、2020年初始動の学生を対象としたTEALABO(ティーラボ)プロジェクトです。

コロナ禍で県外移動はおろか、市をまたいでの移動も困難となった時期ではありましたが、「打つ手がなから知覧茶を発信できない」ではなく、インスタグラムなどのSNSを活用し、全国へメンバー募集を開始しました。初期の頃は手探り状態での進行で、正直どこまで反応があるのか未知数ではありましたが、短期間に想定人数としていた100人

